

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	ボアジチ大学との交流事業の継続と向上を目指して				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	佐藤 真千子
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	佐藤 真千子

講演題目
ボアジチ大学留学の体験授業 — 特別講義で学ぶトルコの国際関係
研究の目的、成果及び今後の展望
<p>本研究は、トルコの協定大学であるボアジチ大学と国際交流を継続的に実施し、国際関係学部が教育目標にかかげる「国家間の関係を踏まえつつ、国境や文化を超えて人と人を結ぶ」人材育成に貢献することを目的に掲げました。当初、学生の相互派遣を想定し、本学学生とトルコ人留学生の共同学習も目的の一つでしたが、コロナ禍により交換留学事業が延期となったため、オンライン対応による特別講義（英語、通訳無し）の開講を増やし、ボアジチ大学の先生方との交流の拡大を図りました。</p> <p>特別講義の内容は次の通りです。(1) メルト・アルスラナルプ教授「民主主義の後退から崩壊へ：21世紀の権威主義化したトルコ」(From Backsliding to Democratic Breakdown: An Overview of Turkey's Autocratization in the 21st Century) — 世界的で権威主義国家が台頭する潮流を概観し、トルコの民主政治が強権化した過程を権威主義化した諸外国の事例と比較しながら、トルコの国家権力と市民社会の問題を考察しました。(2) ディレク・ジナル教授「EU から見たトルコへの国際的な人の移動」(International Migration to Turkey in the Context of the European Union) — かつて世界有数の移民輩出国だったトルコは、1990年代以降、ソ連邦崩壊やアフリカと中東の紛争の影響を受けた人々の受け皿として移民受入国に転じ、いまや世界最大の難民受入国へと変化しました。近年はシリア難民危機に直面した欧州と中東の緩衝国として対EU外交で影響力を強めています。こうしたトルコの移民・難民政策の変遷と市民権問題について検討しました。(3) ギュン・クット教授「トルコ・アメリカ関係：見えない関係改善」(Turkey-US Relations: a Reset that isn't there) — 第二次大戦以降のトルコの対米関係について関係が良好な時期と悪化した時期を捉え、両国関係が変化した原因を歴史的に検証し、トルコの地政学的重要性と安全保障観について考察しました。</p> <p>毎回、学生から様々な質問やコメントがあり、講師の先生方と展開された活発な議論は参加者の英語コミュニケーション意欲を高める機会となりました。本学にいながらにしてトルコ情勢や国際関係について学ぶ留学の体験授業で、より多くの学生が知的好奇心を高め、違う視点から国際関係を見ることを学びました。学外向けにも行なった広報の成果として、本学の学部生・大学院生・教職員の他、複数の卒業生と一般の方々の参加もあったことを記しておきたいと思います。今後も、国際交流に貢献する人材育成に寄与する企画の実施を目指します。</p>